

トラック輸送情報（平成23年4月分）

平成23年7月21日

国土交通省 総合政策局 情報政策本部 情報政策課 交通統計室

担当：中倉 内線28721

直通：03-5253-8347

ホームページ：<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

1. 特別積合せ貨物

(1) 本月の概況

調査対象26社の本月の輸送量は、5,500,301トンで、前月と比べ総輸送量が約27万トン減少したため、前月比95.4%（季節調整済み99.6%）となり、前年同月との比較では、約17万トン減少したため、前年同月比97.0%の実績であった。

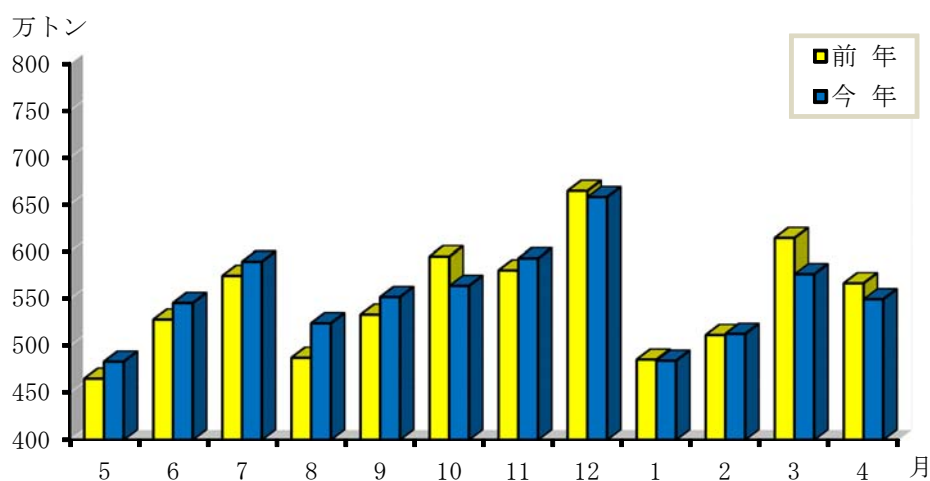
なお、平均稼働日数は24.2日で、前月と比べ2.3日減少し、前年同月との比較では、0.2日減少であった。稼働1日当たりの輸送量は、227,285トンで、前月と比べ約10千トン増加したため、前月比104.4%となり、前年同月との比較では、約5千トン減少したため、前年同月比97.8%の実績であった。

（図1-1、図1-2参照）

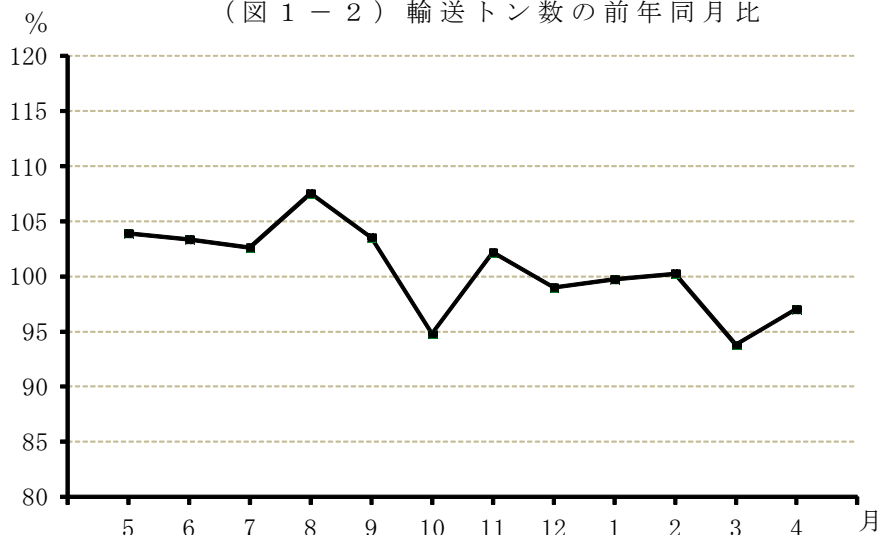
注）平成22年7月から貨物輸送の調査対象については、1社減り、26社となった。

前月比及び前年同月比は、26社ベースで比較している（図1-1及び図1-2は26社ベースで作成）。

（図1-1）輸送トン数の推移



（図1-2）輸送トン数の前年同月比



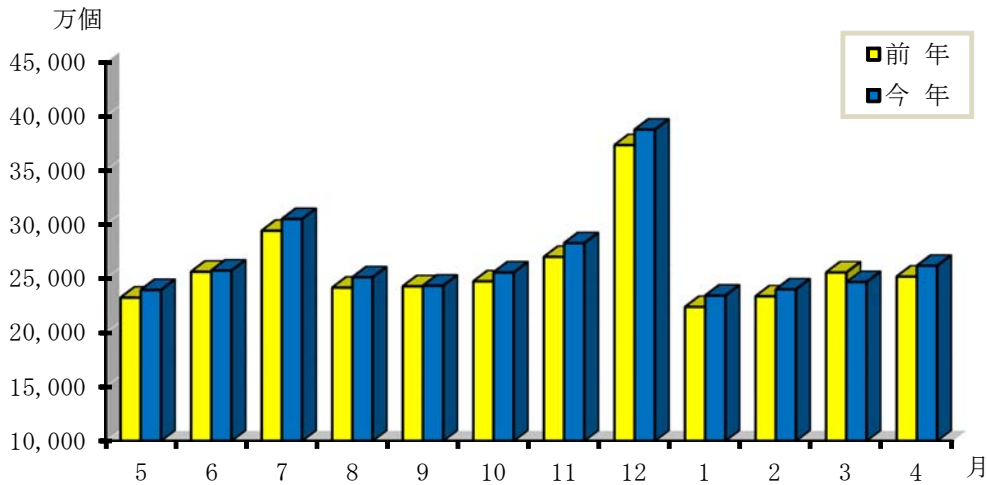
(2) 宅配便の概況

調査対象 17 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、262,030 千個で、前月と比べ 約 1,503 万個増加したため、前月比 106.1% (季節調整済み 106.3%) となり、前年同月との比較では、約 995 万個増加したため、前年同月比 103.9% の実績であった。

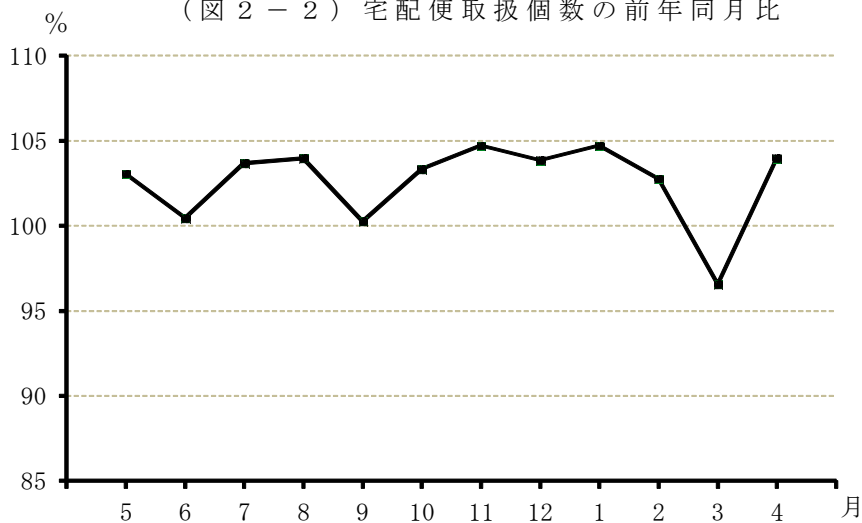
(図 2-1、図 2-2 参照)

注) 平成 22 年 7 月から宅配便輸送の調査対象については、事業承継により 1 社減り、17 社となった。

(図 2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 調査対象 27 社(26 社及び品目別・地域別輸送状況回答 1 社)の品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

前月と比べると、「金属製品」、「機械」、「繊維工業品」、「日用品」等の品目で、輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。減少要因としては、工場・生産地からの貨物減が共通して見られたほか、商社・問屋からの貨物減や季節的需要減が「日用品」で見られた。主な減少地域は関東地方、中部地方、近畿地方、中国等であった。

前年同月と比べると、工場・生産地や倉庫からの貨物減が「機械」、「日用品」等で見られた。主な減少地域は、東北、関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方等であった。

(表1) 品目別増減状況 (回答事業者数 27社)

品目	増減事業者数					主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※ 増減要因	
	著 増	増	変 ら ず	減	著 減				
前 月 に 比 べ て	農水産品	1	2	11	2	1	野菜、果物	東北、関東	
	金属製品	1	3	11	5			東北	
	機械		2	9	6	3	機械部品、その他の機械	関東地方、北陸信越、大阪、近畿、中国	4
	化学工業品	1	5	11	4			東北、関東	4
	繊維工業品		4	11	6		その他の繊維工業品	東北	
	食料工業品		5	11	3		製造食品、飲料	中部地方、近畿地方、中国	4
	日用品		4	7	9	1	書籍・印刷物、その他の日用品	東北、関東地方	4
	その他		4	9	4	3	その他(百貨店配送品)	関東地方、中部地方、大阪、兵庫、中国、九州、全国	4, 5, 8
	その他		4	9	4	3		全国	
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品	1	1	12	3		その他の農水産品	九州	4
	金属製品		2	16	1	1			
	機械		1	11	3	5	電気機械、機械部品、その他の機械	関東地方、北陸信越、愛知、近畿地方、中国	4, 10
	化学工業品	1	3	13	4			中国	
	繊維工業品		2	18	1			神奈川	
	食料工業品		3	13	3		飲料	九州	
	日用品		5	8	6	2	書籍・印刷物、身廻品、その他の日用品	北海道、東北、関東地方、北陸信越、中部、全国	4, 5, 7, 9, 10
	その他	2	4	9	2	3		東京、神奈川、大阪	

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらを除く府県、九州は沖縄を含む)]単位である。
なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

※ 増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2. 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者 809 社／調査対象事業者数 1,050 社）の輸送量は、前月比 98.8%、前年同月比 99.9%であった。

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北 信	陸 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	99.9 %	108.6 %	87.0 %	98.9 %	97.3 %	92.6 %	101.3 %	99.1 %	109.5 %	101.6 %	97.1 %	
前 月 比	98.8 %	101.2 %	115.2 %	111.3 %	94.8 %	93.4 %	94.1 %	86.2 %	99.4 %	95.1 %	96.8 %	

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送については、対前月比101.2%、対前年同月比108.6%であった。品目別では、工場・生産地からの貨物増により「化学肥料」、「動植物性飼・肥料」の輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。また、季節的需要増のため「鉄鋼」、「取り合わせ品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、建設関連の需要減により「砂利・砂・石材」が、季節的需要減により「廃棄物」、「揮発油」、「その他の石油製品」等の輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送については、対前月比115.2%、対前年同月比87.0%であった。品目別では、東日本大震災の影響等により「木材」、「食料工業品」、「廃棄物」等の輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。一方、工場・生産地からの貨物減により「機械」、「野菜・果物」等の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月は減少傾向、以降についてはほぼ横ばい傾向が予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送については、対前月比111.3%、対前年同月比98.9%であった。品目別では、「食料工業品」の輸送量が増加したとする事業者がある一方、「機械」、「日用品」、「その他の製造工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送については、対前月比94.8%、対前年同月比97.3%であった。品目別では、季節的需要増等により「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、景気の影響により「機械」が、季節的需要減等により「セメント」、「揮発油」、「その他の石油製品」、「取り合わせ品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送については、対前月比93.4%、対前年同月比92.6%であった。品目別では、季節的需要増により「その他の農産品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、東日本大震災の影響により「機械」の輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送については、対前月比94.1%、対前年同月比101.3%であった。品目別では、季節的需要増により「化学肥料」が、また工場からの出荷増により「その他の窯業品」、「紙・パルプ」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、輸出入貨物量の減少や東日本大震災の影響により「金属製品」の輸送量が、デパート・スーパーからの需要減等により、「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送については、対前月比86.2%、対前年同月比99.1%であった。品目別では、東日本大震災の影響により「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、景気の影響等により「砂利・砂・石材」、「機械」の輸送量が、東日本大震災の影響等により「金属製品」、「機械」、「その他の製造工業品」等の輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送については、対前月比99.4%、対前年同月比109.5%であった。品目別では、「その他の製造工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により「取り合わせ品」、「その他の農産品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送については、対前月比95.1%、対前年同月比101.6%であった。品目別では、季節的需要増等により「野菜・果物」、「食料工業品」及び「日用品」が、建設関連の需要増等により「その他の窯業品」が、工場・生産地からの貨物増等により「紙・パルプ」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により「穀物」、「取り合わせ品」が、建設関連の需要減により「砂利・砂・石材」、「機械」、「セメント」、「廃棄物」の輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送については、対前月比96.8%、対前年同月比97.1%であった。品目別では、輸入貨物増により「木材」が、建設関連の需要増により「鉄鋼」、「セメント」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、商社・問屋からの貨物減により「その他の化学工業品」、「金属くず」が、デパート・スーパーからの貨物減により「日用品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月は減少傾向、以降については増加傾向が予想される。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況（対前月比）

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品目		運輸局		北	東	関	北	中	近	中	四	九	沖	全
		海	道	道	北	東	陸	部	畿	国	国	州	縄	計
1. 穀物	増			2			1			1				4
	減	1								1		2		4
2. 野菜・果物	増										2	9		11
	減	2	2								2	1		7
3. その他の農産品	増			1				1		1				3
	減	2									1		1	4
4. 畜産品	増	1	1											2
	減	1								1		1		3
5. 水産品	増	1					1							2
	減	1	1							1	1			4
6. 木材	増	1	3				1					2	1	8
	減	3	1				1	1		1		1		8
7. 薪炭	増													
	減													
8. 石炭	増			1										1
	減	2					1							3
9. 金属鉱物	増											1		1
	減													
10. 砂利・砂・石材	増	2												2
	減	8					1	1		5	1	6		22
11. 工業用非金属鉱物	増	1	1								1	2		5
	減	2					1					2		5
12. 鉄鋼	増	2					1		1	1		3	1	9
	減		1				1		1	3	1	2		9
13. 非鉄金属	増			1										1
	減						1			1				2
14. 金属製品	増			2			3	1	2	1				9
	減	2	1				3	2	4	3	1	2	1	19
15. 機械	増			1				1	2	1		1	1	7
	減		3	1			2	5	2	10	1	16	1	41
16. セメント	増	1	2					1			2	1	1	8
	減	2	1				2	1	1	1		9		17
17. その他の窯業品	増								1			4		5
	減			1						1		1		3

運輸局		北 海 道	東 北	関 東	北 陸 信 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄	全 国 計
18.揮 発 油	増		2									2
	減	3			2				1	1		7
19.その他の石油製品	増						1			1		2
	減	2	1		4		1	2	1			11
20.コークス・ その他の石炭製品	増											
	減											
21.化 学 薬 品	増						1		1			2
	減	1			1							2
22.化 学 肥 料	増	4	2		2		1					9
	減				1			1				2
23.その他の化学工業品	増											
	減		1		1	1					1	4
24.紙 ・ パ ル プ	増	1	1		1		1	1	1	3		9
	減	1			2	1		1	2			7
25.織 維 工 業 品	増				1							1
	減								1	1		2
26.食 料 工 業 品	増		9	1	4			3	3	8		28
	減				2		4	1	3	4	1	15
27.日 用 品	増	3	2		2		1	2		6		16
	減	2		1	1		1	2		4	1	12
28.その他の製造工業品	増		3						2	3		8
	減		1	1			1	4		2		9
29.金 属 く ず	増											
	減										1	1
30.その他のくずもの	増											
	減											
31.動植物性飼・肥料	増	5	3					1		1		10
	減	1								2		3
32.廃 棄 物	増		5									5
	減	4								4		8
33.輸 送 用 容 器	増	1	1		1			1				4
	減		1						1	1		3
34.取 り 合 せ 品	増	2	3	1						1	2	9
	減		1	1	2			4	2	3	1	14
35.そ の 他	増	1	3	3			1	3				11
	減			4	3		5	7	2	2		23